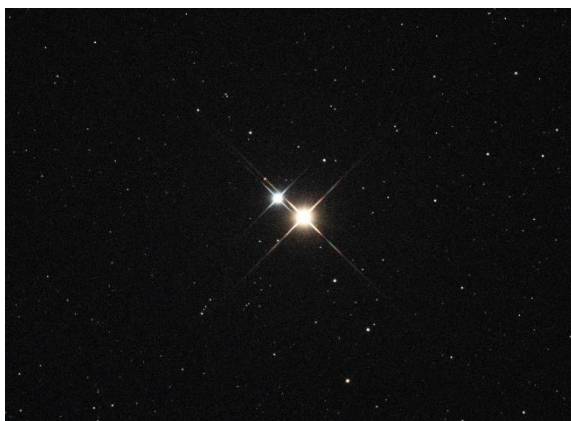




アルビレオの2つの星



アルビレオ 黄色い方が3等級、
青い方が5.1等級の二重星 ©国立天文台

夏の星座の一つ、はくちょう座。こと座・わし座の1等星と共に、夏の大三角の一角を担う星はデネブと呼ばれ、はくちょうの尾の辺りで輝いています。デネブの反対側、はくちょうのくちばしに光るのがアルビレオです。

アルビレオは、肉眼で見ると3等級の明るさの1つの星に見えますが、望遠鏡で覗くと、写真のように2つの星を見ることができます。このような、肉眼では

1つに見え、望遠鏡では接近した2つの星としてみえる天体のことを「二重星」と呼んでいます。二重星には地球から見たときに偶然並んで見えているだけの「見かけの二重星」と、実際に星同士が互いの周りを公転している「連星」と呼ばれるものがあります。しかし、アルビレオがこの2つの二重星のうちのどちらなのかは分かっていませんでした。

1999年、アルビレオは連星である、とカナダの天文学誌から発表されましたが、2016年にはアメリカ海軍天文台の新たなデータにより、見かけの二重星と結論付ける記事がアメリカの天文学雑誌に載りました。2018年、この問題は、ヨーロッパ宇宙機関の位置天文衛星「ガイア」による観測データの「年周視差」「固有運動」を調べることにより、「見かけの二重星」であることが決定的となりました。

衛星ガイアが記録するあらゆるデータは、いまだ解明されていない宇宙の問題を解くための宝の山だったのです。

かいせつ いん まつもと もえ
(解説員: 松本 萌)